

# ご存じですか！文化財

87

## 「六曲屏風」

市指定有形文化財 昭和38年9月17日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1223)

この屏風は中国故事の西園雅集を画題としたもので、下三侯村(現・加須市)に生まれた雪兆により描かれたものです。大きさは、縦約2m、横約4mの六曲一双の屏風です。西園雅集とは、中国宋代の円通大師が西園の築山で蘇東波ら16人の著名な文化人を招いて詩を作ったり、絵を描いたりして過ごした様子を描いたもので、好んで南画のテーマとされました。

この作品は、雪兆が法眼となつた翌年の慶応3(1867)年、67歳のときに制作されたものであり、西園で楽しむ文人墨客らの様子や園内のさまざまな木石などが、型にはまらずのびのびと描かれています。

雪兆は、寛政12(1800)年に生まれ、本名を堀越文太郎といった。幼いころから絵師を志し、江戸に出て谷文晁



※屏風は公開していません。

に師事した。その後は、花崎村(現・加須市)に生まれ、後に上野下谷に住む巻立兆に師事し京画を学んだ。慶応元(1865)年、65歳のとき、法橋の位を賜り、後に町絵師として最高位の法眼となつた。これにより名声は天下に広まり、その名を慕つて画を請う者が後を絶たなかったという。明治18(1885)年に85歳で没した。市内、大門町の龍蔵寺に墓地がある。